

2013年度 アカデミックコモンズプロジェクトルーム 成果報告書

作成日 2014年 2月 10日

プロジェクト名	本棚プロジェクト		メンバー数	4人
代表者	所属	理工学部化学科	学年	3
	ふりがな	たけだ なおき		
	氏名	竹田 直樹		
プロジェクトの成果	<p>ビブリオバトルのテーマを変えて、月に1回程度行った。ここで紹介された本と、プロジェクトメンバーが選んだ数冊をカジュアルライブラリーコーナーに設置した。これらの本は、既存の本より貸出しされる割合が多く、この企画により学生が本に触れる機会が増えた。本の感想をポストイット書いてもらい、多くの人と共有できるように、「感想ポストイット」を設置した。感想を書いてもらう過程で、アカデミックコモンズ内の多くの人と本の話をする事ができた。また、本棚プロジェクトのFacebookページを設立し、カジュアルライブラリーコーナーや図書館にある本を日々紹介している。これらのことから、アカデミックコモンズ内で本を通じた交流の場を作り、学生が本と出合える機会を増やす事ができた。</p>			
アクティビティ実績 (※日時・イベント名称・内容を記入)	<p>アカデミックコモンズで、11/20、12/5、12/18、1/6にビブリオバトルを行った。ビブリオバトルは、本について発表をし、投票でチャンプ本を決める、書評ゲームである。また、2/16、3/22には三田市立図書館でビブリオバトルを行い、3月には本の月展示も行う。それぞれのテーマは、それぞれ「テーマなし」、「推理小説」、「英語でビブリオバトル」、「マンガ」、「スポーツ」、「図書館で出会った本」である。プロジェクト期間中のアカデミックコモンズでの発表者は、3人または4人、観戦者は2人から4人であった。「英語でビブリオバトル」は、英語力の向上を目指す企画を行う団体である、「グローバルコミュニティ」との共同企画であった。また、首都決戦グランドチャンピオンの中前さんの凱旋講演12/6も行った。</p>			
プロジェクトを通じて学んだこと	<p>感想ポストイットを書いてもらったとき、本の話をしたが、本を習慣的に読む人は本について語るのも好きだということ学んだ。普段の生活を見返すと、本について話す場は少ないが、だからこそ、本を通してコミュニケーションする場が必要だと感じた。ビブリオバトルを開催するにあたり、具体的にテーマを絞った方が、参加者の興味と結びつきやすく、人を集めやすいことや、多くの人の協力無しでは、イベントを運営できないことも学んだ。また、ビブリオバトルの発表者として参加することで、人にわかりやすく伝えるための技術を学んだ。</p>			
今後の課題	<p>ビブリオバトルの発表者、観戦者の人数と多様性増やすことである。アカデミックコモンズ利用者では、「ビブリオバトル」という名前を知っている人は多いが、実際に参加しようとする人はまだまだ少ない。昼休みや、興味を持ってもらいやすいテーマで行うことで改善したい。多様性を増やすために、「英語でビブリオバトル」のような共同企画をする。これにより、発表者を確保できるだけでなく、学内の他のコミュニティとつながり、コモンズ利用者にとってもメリットがある。また、本の返却率を改善することも課題だ。これには、利用者との交流を深め、良質な利用者を増やすことが必要である。</p>			

【提出書類】 プロジェクトに関わる写真を3～4点提出してください。

活動内容を補足する資料がある場合は、提出してください。(補足資料、成果物[ビデオなど])